

## はじめに

「受験古文」といえば、「つまらない」「めんどくさい」「ただの暗記もの」……という暗くおもしろいイメージが、まず頭に浮かびます。本来は、「古文」といっても所詮は日本語なのだし、それほど難しく考えなくてもなんとなく読めるはずで、まして「古文」には、「愛」だの「恋」だのといった、高校生諸君が最も興味を持ち、敏感に反応すべき内容がたくさん登場するというのに、どうしてそんなに嫌われてしまうのでしょうか。「源氏物語」の漫画があればほど人気を博し、安倍晴明がもてはやされるというのに、どうして「古文」が読んでもらえないのでしょうか。これはひとえに「古典文法」、特にあの「助動詞」のせいではないかと思うのです。ストーリーをとらえ、味わうことについて、「古文」のおもしろみを否定することはできません。それでなければ、「源氏物語」や「枕草子」が、千年もの年月を経て、現在まで残っているはずがないではありませんか。それなのに、これがいったん「受験」という冠をかぶせられ、「受験古文」と呼ばれるものになると、突然、「文法・語法」やら「単語」やらの比重が大きくなって、その厚い壁に阻まれて、「古文」そのもののおもしろさが見えなくなってしまうのです。

それではあまりにもつたいない、なんとか「古文」を好きになってもらいたいと、私たち講師はつねづね考えているのですが、なかなかよい方法が見つかりません。一つの方法としては、「古典文法」などは完全に無視して、どんどん「古文」の文章を読んでいくというのがあります。これは、必ず効果が期待できますが、まず第一に大変な時間と労力を要します。そのうえ、文法重視型の最近の大学入試に対応しているとはいえず、即得点には結びつきません。「古文」のおもしろさを分かってほしいといっても、結局のところ受験生の目標は大学合格なのですから、それをないがしろにするわけにはいかないのです。もう一つの方法としては、手取り早く「文法力」を身につけてしまおうというやり方です。「古典文法」の細部にまでこだわって、「助動詞」を勉強しただけでイヤになってしまおうのではなく、さらっと全体をまず見通

して、より高度な内容については、文章を読みこなす中で修得していくという方法です。これならそれほどつづきにくくもないし、入試の実態にも通っていて、短期間に集中的に学習することも可能なのではないのでしょうか。文章そのもののおもしろさを味わうことはできないけれど、文法だけに着目するのも、一種のバズル的なおもしろみがあると思います。

そういった視点で、私たちはこの「ステップアップノート30」を古典文法基礎ドリル」を作成しました。むろん、文章が読みこなせなければ入試問題は解けません。読解への入門。これまで学習した文法事項の整理として、こうしたドリル形式の問題集を解いてみることは、決して無駄ではないはずです。本書をやり終えて、よりいっそう読解力を身につけたい人は、「中堅私大古文演習」・「得点撃取古文」（いずれも小社刊）へとステップアップしていった下さい。この問題集を解き終える頃には、「なーんだ、古典文法なんてたいしたことないじゃん」と思えるようになってくれるよう願っています。

平成八年八月八日

## 三訂版発行のいきさつ

本書が刊行されて、なんともう十二年が、初版発行年の干支、「子年」に合わせて登場した、「チヌウちゃんマーク」の年がまたやってきました。途中、改訂版の発行も経て、受験生の間には随分と浸透してきた本書ですが、このたび、みなさんのご要望にお応えして、文章の中で文法を学習できる「ステップアップノート30」を古典文法トレーニング」を作る運びとなりました。さらにも本書と同じ講義立てになつていたので、「ドリル文章」と一講ずつ交替に使ったり、本書の復習編として使ったり、いろいろ工夫していただけたと思います。それに併せて、本書もポイント・例文等の見直しを行い、よりいっそう使いやすいものになりました。今まで以上にみなさんのお役に立てらうと思います。

平成二十年戊子 十二月十二日

## 本書の使い方

本書は、「ポイント」「基本ドリル」「練習ドリル」から成っています。

### ① まず、「ポイント」をじっくり読んで下さい。

ここには、古典文法を勉強するうえで、どうしても知っておかなければならないことが書かれています。とにかくこれだけは理解してほしいと私たちが切実に考えていることしか書いてありません。また、授業中や、答案の添削をしている中で気づいた、受験生がつまづきがちな部分に、**①** (チヌウちゃんマーク) をつけて注意しておきました。ちょっと気にとめて見て下さい。

### ② 次に「ポイント」の下にある「基本ドリル」を解いて下さい。

これは、「ポイント」の内容を理解するためのものです。これを解くことによって、「ふーん、そういうことか」と納得してほしいのです。解答は、「練習ドリル」の最後に付けてあります。

### ③ そして、次のページにある「練習ドリル」に進みます。

「練習ドリル」は、「基本ドリル」プラス、 $\alpha$ のレベルの設問から、入試レベルの設問までいろいろです。同じようなタイプの設問が重なっている場合は、繰り返し学習してほしい内容です。少々手強い問題もあるでしょうが、とりえず自力で解いてみるのが大切です。不可解なところがあったら、すぐに「ポイント」に戻る癖をつけましょう。

### ④ 仕上げは答え合わせです。

一講解が終わることに答え合わせをしてください。「練習ドリル」の解答は、目移りすることを避けるために、設問そのまま、答えと解説を加えた形になっています。解説を読んで理解し、ここで完全に「ポイント」の内容を定着させて下さい。

一度目のチャレンジでどのくらいできたのかを、各講のタイトルの下にある、「お月様マーク」にチェックしておきましょう。

簡単にできた

なんとかできた

ほとんどギブアップ

自分でつけたチェックにしたがって、二度目のやり方を考えましょう。

● なら、「ポイント」と「練習ドリル」さっと見直すだけでOK。

○ なら、少し時間をかけて「練習ドリル」を解き直す。

○ なら、もう一度「ポイント」↓「基本ドリル」からやり直し。

③④の繰り返しで、基本的な文法力は、十分身に付くはずですが、

自分の苦手なところにチェックを入れておいて、その部分を特に繰り返し学習するのも効果的です。志望校合格を目指して、着実に実力を養成していきましょう。途中で放り出さずに、最後までがんばってくれることを、講師一同、心から応援しています。



# 1 古典文法 事始メ

コトハジ

- 種々の語の活用形を記載する。  
○ 係り結びについて学習する。



## 〈ポイントA〉

品詞の中で活用するのは、「動詞」、「形容詞」、「形容動詞」、「助動詞」である。  
※「活用する」とは、同じ語が形を変えることで、例えば、「書く」という動詞は、「書かない」「書きます」「書くとき」などとさまざまな形で用いられる。  
※動詞・形容詞・形容動詞を用言、名詞を体言という。

## 〈ポイントB〉

活用形には、未然形・連用形・終止形・連体形・已然形・命令形があり、六種類の活用形は下につく語によって決まる。

	基本	下につく主な語				
未然形		ず・む・す・さす・る・らる	ば			
連用形	用言	たり・けり・き・つ・ぬ	て			
終止形	「。」	べし	と			
連体形	体言		に・を			
已然形		り	ど・とも・ば			
命令形	「。」					

## 〔基本ドリル〕

### A 次の例文の、活用する語七つに傍線を引け。

いまは昔、竹取の翁といふものありけり。野山にまじりて竹を取りつつよろづのことに使ひけり。

### B 次の例文の「書く」の活用形を、下の語に注意しながら答えよ。

- 書く。
- 書かず。
- 書けども、
- 書く人。
- 書きたり。

⑤	④	③	②	①
形	形	形	形	形

## 2 「練習ドリル」の解答

1 次の和歌の傍線①～③の動詞を解答例に従って文法的に説明せよ。

春米ぬと人は言へどもうぐひすの鳴かぬかぎりはあらじとぞ思ふ<sup>①</sup>  
 春が来たど人は言うけれど、鶯が鳴かないかぎりにはまだではないだろうと思ふ<sup>②</sup>  
 ③

①	八行四段活用已然形
②	カ行四段活用未然形
③	八行四段活用連体形

2 次の動詞の活用表を作れ。

	消す	出づ	見る	得
語幹	消	出	見	得
未然形	さ	で	み	え
連用形	し	で	み	え
終止形	す	づ	みる	う
連体形	す	づる	みる	うる
已然形	せ	づれ	みれ	うれ
命令形	せ	でよ	みよ	えよ

## 【解説】

覚える動詞でない場合は、「ず」をつけて未然形を確認する。

↓①「言へ」の「へ」は、八行、終止形は「言ふ」である。未然形は「言は」(「ア段」)であるので、四段活用。下に「ども」があるので、已然形。

↓②「ず」をつけると「鳴か」なので、カ行。変格活用の動詞を除いて、未然形がア段になるのは、四段活用しかない。

↓③「ず」をつけると「思は」なので、八行四段活用。係助詞「と」の結びなので、連体形。(係り結びの法則)

2 活用の種類を確認し、活用表を作れるようにする。上一段・下一段は覚える動詞なので要注意。

↓「ず」をつけると「消さ」となり、サ行四段活用。

↓「ず」をつけると「出で」となり、タ行下二段。未然形がエ段なのは、下一段か下二段。下一段は「ぬる」だけ。

↓「見る」は、代表的な上一段動詞である。上一段は「る」の上か「き(意)・み(見)・に(似・意)・い(射・鈍)・ぬ(居・準)・ひ(干)」と覚える。

↓「得」「寝」「経」は語幹のない下二段活用動詞である。